

TAKE
FREE

THEME

みのり

太田宣子 / 大平千賀 / こゆり

嶋田さくらこ / たえなかすず

とびやま / 葉山なぎ / 氷吹けい

螢子 / むしたけ

うた
たら
ば 

2011.11
vol.04

a graphical tanka zine

編集後記	25	むしたけ	3
蛸子	23	氷吹けい	5
たえなかず	21	大平千賀	7
葉山なぎ	19	とびやま	9
太田宣子	17	こゆり	11
嶋田さくらこ	15	佳作集	13



THEME

みのり

それは、秋の匂い。
それは、夕暮れの匂い。
すぐ近くで、ずっと遠くで、
いまもまだ香りつづける
やさしい記憶に眠る、なにかの。

短歌は、
もつと、
自由になれる。

きみの言うすべてがいつか実をつけてなおにぎやかな東京だろう
(むしたけ)

雑踏という言葉が
とても似合う
人も街も
まるで生きているかのように

明るさに恋をして
自分のものにはなくて

そんな距離を愛したのかもしれない
そんな未来を夢見たのかもしれない



来年は三人で訪れるために手を振ればまた揺れる**金色**
(氷吹けい)

離れてしまうのは
しかたのないこと
わかってるよ
わかってる

わかってる
わかってるから



君の好きなもの
教えてよ
芝生と猫と
サイダー以外の、ほら

君の好きなもの
教えてよ
ふたりしか知らない
とてもやさしく
ひびく言葉を

ベリージャム紅茶にとけてゆく午後にゆうべの君がもう懐かしい
(大平千賀)



空よりも
地面のほうがすごいよ
地面がなかったら
僕らはいつまでも
落ち続けちゃうんだから

ねえ聞ってるの

地面がなかったら
あの花だって
咲かなかったんだから

ねえ

マンションの裏庭に咲く退屈にふたりが投げた種もいくつか
(とびやま)



2 773071 001556

フィリピン産バナナ 計量

100g当り
(円)

内容量
(g)

18 033 8560

865

155

AEON

価格表示



あなたは笑って
きれいに逃げる
呼んでも
呼んでも
あなたはいつも人ごみに
気高く消えていなくなる

一年中バナナが並ぶこの国で手に入らないあなたの小指
(こゆり)

佳作集

失えば遠くに実る恋がある 桃には白い緩衝材を（大平千賀）

日本の産毛が過敏になっていく青い蜜柑のならぶ季節は（飯田和馬）

桃色の桃のやわかい胎内に大きな種子が育つ不純（ユキノ進）

育ちゆく麦のごとくに少女らはみるみる金に輝いてゆく（たむぼりん）

スーパ―に梨がならんでいつせいに夏をおわせようとしている（達）

あかき実をひとつまたひとつほぼばりてやさしいだけのきみをわすれる（太田宣子）

結ばれるはずが無かった二人にも金色銀色降らせてよ秋（嶋田さくらこ）

それはもうたわなに実り人々の恨み漂う銀杏の並木（楠木めいこ）



もう二度と見れない涙を舐めてみる種のできないぶどうの味だ（蛭野みどり）

この胸にあふれるものが色づいてかたちを成せば秋の草の実（紗都子）

みのり無い話の方が好きだった君の声さえ此処にあるなら（松原）

一生の中で一番美しい瞬間のまま真つ赤なりんご（じゃこ）

「さくらんぼ送るからね」の次に出る母の小さくなかった期待（天鋳女聖）

ウィリアム・テルは貴方だ この胸の林檎を正しく射抜いてほしい（龍翔）

ただ一つ残った果実の種も噛み「ごちそうさま」を「さよなら」にする（水川史生）

守られて育ったんだねきれいだねビニールハウスの君は薄味（野比益多）

水田はこんじきのゆめ ぼくたちはそのこんじきの音をきくゆめ（むしたけ）



ドングリが音符になりたがっているなんて理由で君を呼びたい
(嶋田さくらこ)

つかもうとしても
つかめない
木枯らしみたい君は
どこまでも自由

自由にわたしを
奪い去ってく

遠いところまで来たね
もう帰れないかもしれない
帰れなくなったらどうしようか
このまま迷うのもいいかもしれない



ここもまた恋のけものの森らしいモンブラン買ふ深夜のローソン
(太田宣子)

すこしだけ早すぎたんだ わたしたち
終わることと はじまることを
同じものだと言っていたね

熱のない君の手で割りひらかれる無花果
いつそこわしてほしい
(葉山なぎ)

嘘だって笑ってくれたなら
世界はそこからいっせいに
輝きはじめる
はずだったんだ

模倣です
紅いフェイクの林檎です
きみが愛した東京なんて
(たえなかず)

にぎわうほどに孤独をかんじる 世界の仕組み

わたしを知らない人よ あなたを知らない人よ

わたしのかわりに 空に笑顔を

この国の豊年祝う秋祭りあなたの代わりはどこにもいない

(螢子)



編集後記

うたらば、リニューアルしました。

進化しなくてはという想いの表れと書けばカッコイイですが実際のところは僕の気分転換です。とはいえ、カフェなどで冊子が並んだときに少しでも多くの方に何気なく手を伸ばしてもらえよう、できるかぎりの工夫はしたいと思っています。冊子をご覧くださりお気づきの点や短歌の感想、叱咤激励などありましたら、ぜひ話題にしていだけますと幸いです。

さて、今号のテーマ【みのり】。多くの方から「難しい!」というお声をいただきました。思考を限定しすぎず意味も適度に広いお題を考えることの難しさをあらためて痛感しています。このあたりも少しずつ成長していきたいと思いますので、今後ともご投稿のほど、よろしくお願いいたします!

企画・写真・詩・誌面デザイン
田中ましろ





「うたらば」では、いつでも短歌を募集しています。下記 URL か Twitter より募集概要をご確認ください。投稿短歌より 10 首選ばせていただき、写真作品を制作。次号にて紹介させていただきます。

● Twitter / @utalover ● Website / <http://www.utalover.com/>

うたらばvol.04【みのり】

<http://p.booklog.jp/book/38871>

企画・詩・紙面デザイン：田中ましる@うたらば
プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/utalover/profile>

※本誌は電子書籍用に最適化された冊子ではありません。
正式PDF版は下記URLでご確認ください。
<http://www.utalover.com/pdf/utalover04.pdf>

感想はこちらのコメントへ
<http://p.booklog.jp/book/38871>

ブックログのパプー本棚へ入れる
<http://booklog.jp/puboo/book/38871>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパプー (<http://p.booklog.jp/>)
運営会社：株式会社paperboy&co.